

令和の日本型教育を支える教育環境と授業デザイン に関する国際比較研究

「令和の日本型教育」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」への転換が求められ、教育環境と授業デザインの革新が不可欠です。

本報告書は、国際的視点から日本の教育改革への示唆を得るため、タイの教員養成・教育研究の主要大学を視察しました。特に以下の点に焦点を当て、教育現場を調査しました。

- カリキュラム設計
- アクティブラーニングの導入
- デジタルツールの活用方法

* 視察期間: 2025年10月12日~16日(5日間)

* 視察地: タイ王国バンコク都

* 視察対象: シーナカリンウィロート大学(SWU)、スアン・スナンダ・ラジャバット大学(SSRU)、および両大学の附属校園

島根県立大学松江キャンパス

高橋 泰道・梶谷 朱美・中谷 昌弘



視察の目的と背景

🌀 研究目的

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する教育環境と授業方法について、国際的な視点から比較研究を行います。

本研究は、現代社会で求められる資質・能力を育む教育への転換を目指し、具体的な教育環境デザインと効果的な授業方法を国際的に比較分析することを目的とします。

- **個別最適な学び:** 生徒の多様なニーズに応じた学習機会の提供
- **協働的な学び:** グループワークを通じた能力育成。
- **教育環境デザイン:** 教室空間やICT環境の学習支援。

⚠️ 日本の課題

日本の教育は教員主導の一斉指導が中心で、「主体的・対話的で深い学び」を育むには課題があります。

学習環境は受け身になりがちで、個別探究活動やグループ学習に適した空間設計が不足しています。学習者中心の教育へと転換するためには、授業方法だけでなく、教室の物理的環境や教育制度全体の見直しが求められています。

💡 着眼点

タイでは教員養成段階から実践的な「学習環境デザイン」を重視しています。

タイの教員養成大学では、多様な学習形態に対応できる教室レイアウト、教材開発、ICTツールの活用方法を体系的に学びます。これは日本の教員養成における課題解決への有益な示唆となることが期待されます。





シーナカリンウィロート大学 (SWU)は、1953年に設置された25,000名の学生を擁するタイの主要教員養成大学で、教育学部には2,000名以上が在籍。「良い授業は、良い環境から生まれる」という理念に基づき、学習環境設計を教員の専門性の中核と捉えている。



シーナカリンウィロート大学(SWU)の特徴

1 実践前提の専門職教育

3つの実習スペースを用意し、教員になる学生が多様な教え方や新しい技術を実践的に学びます。

- 模擬授業で教え方を練習。
- ICT教室でデジタルツールを学ぶ。
- グループ学習スペースで協力を体験。

2 環境設計の理念

「良い環境があれば、良い授業が生まれる」という考えのもと、学生のやる気を引き出すための環境全体を大切にしています。

- 物理的環境(明るさ、音、机の配置)。
- 情報環境(必要な情報やツールの配置)。
- 心理的環境(安心して意見が言える雰囲気)。

3 柔軟な空間構成

机や椅子を自由に動かして、授業に合わせた空間を作ります

- 個別学習、グループワーク、発表など、様々な授業形態に対応。
- 学生が自分たちで空間をデザインすることで、主体性を育む。
- 教員は固定された教室に縛られず、最適な環境を創造できる。

SWUのアクティブラーニングとICT活用

授業構造の特徴

- 構成主義的なアプローチに基づき、導入から振り返りまでの一連の流れで学びを深化させます。
- 教師は「ガイド役」として、学生の思考を深める「本質的な問い」を提示し、学習プロセスをファシリテートします。
- 学生の理解度や興味に応じ、授業内容を柔軟に再構成し、パーソナライズされた学びを提供します。

ICT活用の多層的意味

- ICTは、学生間の協働学習と深い対話を実現するためのプラットフォームとして活用されます。
- 抽象概念と具体的な体験をデジタル・実物教材で提示し、多角的な理解を促進します。
- ICTにより、抽象思考と実践を往還し、深い学びと問題解決能力の育成に貢献します。



SWU附属小学校の革新的実践

プレイルーム活動

週1回1時間、1～3年生(約180名)対象に実施。子どもが自ら活動を選び協働。多様な活動を通じ、**幼小接続を促し、遊びながら学習を継続**させます。

- 多様な活動を通じ、自主性、創造性、協調性を育む。
- 教員は観察・助言で自己調整能力と社会性を育成。

STEAM教育

STEAM分野を統合し、現実の課題解決を目指す学習です。

- ロボットプログラミング等の実践的プロジェクトを実施。
- 教師は探究活動を支援するファシリテーター。
- 21世紀型スキル(批判的思考力、創造性、協働性)を育成。

伝統文化教育

タイの伝統舞踊を正規カリキュラムに位置付け、子どもたちの**アイデンティティ形成**につなげています。

- 舞踊技術だけでなく、歴史や物語も学ぶ。
- 自文化への理解と誇りを育み、アイデンティティを形成。
- 身体表現能力や協調性を養う。





スアン・スナンダ・ラジャバット大学(SSRU)

大学の特徴

1937年創設の国立大学で、タイの高等教育において重要な役割を担うラジャバット大学群の一つです。

- 教師養成の伝統を持ち、創造性とリーダーシップを備えた人材育成を目指す。
- 初等・幼児教育の教員養成で国内有数の実績を誇る。
- 実践的なカリキュラムで、地域社会に貢献する質の高い教員を輩出。

模擬保育の実践

将来の教員が直面する多様な教育現場を想定し、実践的な指導能力を養うカリキュラムです。

- 学生が子ども役・保育者役を演じ、乳幼児の発達に応じた活動を企画・実行。
- 五感を刺激する遊びで、非認知能力を育む指導法を学ぶ。
- シミュレーションを通じ、指導技術、共感力、問題解決能力を高める。

手作り教材の重視

身近な素材を活用した教材開発を通じて、学生の創意工夫を引き出す教育方針です。

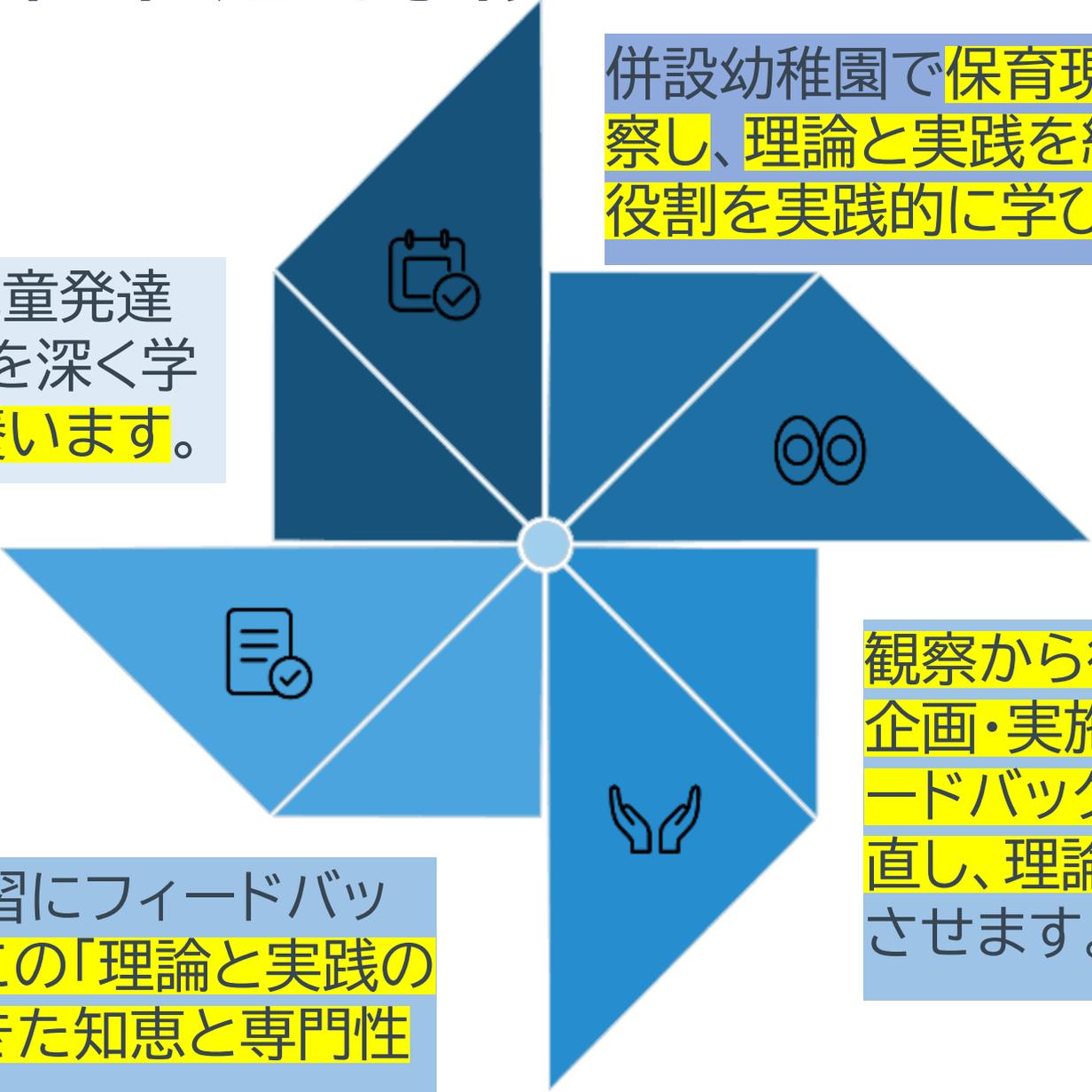
- 身近な素材で教材を開発し、タイの教育現場の知恵と工夫を反映。
- 子どもの発達段階に合わせた教材を自ら設計・制作。
- 学生の創造力と問題解決能力を養い、実践的な教育スキルを育成。

SSRU附属幼稚園の往還的学修

保育に必要な学術的知識(児童発達心理学、幼児教育理論など)を深く学び、**理論的基盤と洞察力を養います。**

実践の経験と反省を理論学習にフィードバックし、知識を深化させます。**この「理論と実践の往還」を繰り返すことで、生きた知恵と専門性を高めます。**

附属幼稚園が大学棟1階に併設されているため、**学生は日常的に保育現場に関われます。**この理論と実践を往還する学びの場は、**実践力の高い保育者育成に貢献しています。**長期間にわたる**継続的な現場経験により、学生は深い自己省察と成長を促し、即戦力となる保育者を目指します。**



併設幼稚園で**保育現場を定期的に観察し、理論と実践を結びつけ、専門的役割を実践的に学びます。**

観察から得た**学びに基づき保育を企画・実施し、その効果を検証。****フィードバックを通じて実践を見つめ直し、理論を「使える知識」へ昇華させます。**

日・タイ教育比較から見える課題



学習環境の捉え方

タイ: 子どもの発達や興味に合わせ、柔軟な学習空間を重視し、主体的な学びを促します

日本: 均質な教室空間が一般的で、環境より教師の指導技術が学びの質を左右します。

この違いは、子どもの自律性への期待度や教師の役割に対する認識の差に起因します。



文化教育の位置付け

タイ: 幼少期から伝統舞踊など文化教育が体系的に組み込まれ、国民としてのアイデンティティ形成を重視します。

日本: 文化教育は行事の一環として取り入れられることが多く、体系的なカリキュラムは稀です。

このアプローチの違いは、タイと日本の教育目標の差が表れています。



教員養成の在り方

タイ: 養成課程で実践的な環境構成能力や、保育技術の習得に重点を置き、理論と実践を往還する機会が豊富です。

日本: 理論学習と特定の保育技術習得が中心で、実習期間も短く、深く考察する機会は限定的です。

この相違は、タイが「実践者」、日本が「教育の専門家」としての教師像を志向する傾向を反映しています。

本学・地域教育への示唆

01

教員養成課程への反映

模擬授業や実習指導に「教室環境の設計意図」分析の視点を導入します。

- ・ タイの事例を参考に、環境が子どもの学びと行動に与える影響を考察し、質の高い教育環境を創造する能力を育成します。

03

地域教育現場への還元

研修会やワークショップを通じ、環境構成と授業改善の実践事例を発信します。

- ・ タイの知見を基に、地域の教育力向上に貢献する具体的な改善策を提案します。

02

学生の実践力育成

ICTと手作り教材を組み合わせた実践で、学生の創意工夫を引き出します。

- ・ デジタルとアナログの融合を学び、インタラクティブなコンテンツ制作や教材製作を通じて実践的指導力を向上させます。

04

タイ研修への活用

学生が現地で教育環境を観察・分析し、国際的視野と実践力を育成します。

- ・ タイの教育現場から学び、異なる文化圏での教育課題解決アプローチを習得します。

